



ワーケーションまちづくり・ラボ

ひと目線で紹介する レボ系プロジェクト

レボ系プロジェクト《1》



レボ系プロジェクト《1》

温泉MaaSプロジェクト

温泉MaaSプロジェクトは、
私が初めて千曲市ワーケーション体験会に参加したときに、
ふろしきや田村さんとの会話から始まりました。
2020年11月に温泉MaaSアイデアソンを開催したことをきっかけに、
地元の住まわれている方々、事業者の方々、行政の方々、
ワーケーション参加者を巻き込んで、「できるところからやってみる」を
繰り返し、徐々に形作られたものです。

私は2018年に「MaaS : Mobility as a Service
(ひとつのサービスとしてのモビリティ)」という概念に触れて、
今後の公共交通に必要なものだと思ったものの、
具体的に何をすれば多くの方が関わる公共交通において
win-win関係が作れるのか分からなかったところに、
たまたま参加した千曲市ワーケーションをフィールドとして
様々なことを試させてくれて、フィードバックをもらったことは、
大変感謝しています。
この体験から得た気づきは、MaaS専門のスタートアップに
参画することを決意することにもつながりました。

アイデアソンは、
事業アイデアの
壁打ちにピッタリですよ！

レボ系ワーケーション MaaS 担当
株式会社 MaaS Tech Japan 取締役
清水 宏之

千曲市ワーケーションで企画した
「温泉MaaS」をキッカケにして、
地域交通に変革の起こしたい！

レボ系ワークショップ
SMILE & ARRANGEMENT
EVOLUTION & WORKATION
BY NAGANO CHIKUMA CITY

プロジェクト発足のキッカケは？



初めて千曲市ワーケーションに参加したとき、
体験プログラムごとに異なる開催場所の間を、
事務局の方が自動車で参加者を送迎されていることを見ていて、
体験会ではこれで良いけど、ワーケーションという形で持続可能な
事業にしていくためには、参加者自らが移動できる必要があると感じました。
このこととともに、MaaSという概念を田村さんにお話ししたところ、
「それ面白いですね」と、「次回、それを考えるアイデアソンやりましょう！」と
その場で次回（1ヶ月半後！）に開催が決まったのが
「温泉MaaSアイデアソン」でした。
その後、温泉MaaSアイデアソンやワーケーションで行われた
ワークショップなどで参加者の方々（地元の方も含めて）から出されたアイデアが、
温泉MaaSには取り入れられていきます。

どんなチームメンバーが参加しましたか？

▼ コアチーム

田村	柳	古澤	清水
全体まとめ役 関係者調整	機能企画・開発・運用	機能企画・開発・運用	企画支援・アドバイス 一部機能開発・運用

▼ 協力してくれている方々

信州千曲観光局 フリーチケット販売 （旅行業扱い）	千曲市役所 交通政策課 千曲市循環バスとの連携	畑山ハイヤー 更埴観光タクシー タクシー配車の連携	ワーケーション 参加者 （地元の方々も含め） アイデア出し 利用・フィードバック
商工会 店舗でのチケット取扱い連携	しなの鉄道 しなの鉄道線との連携	ドコモバイクシェア シェアサイクルとの連携	亀清旅館 （ずぐだしエコツアー） シェアサイクルとの連携

実際の成果やインパクトは？

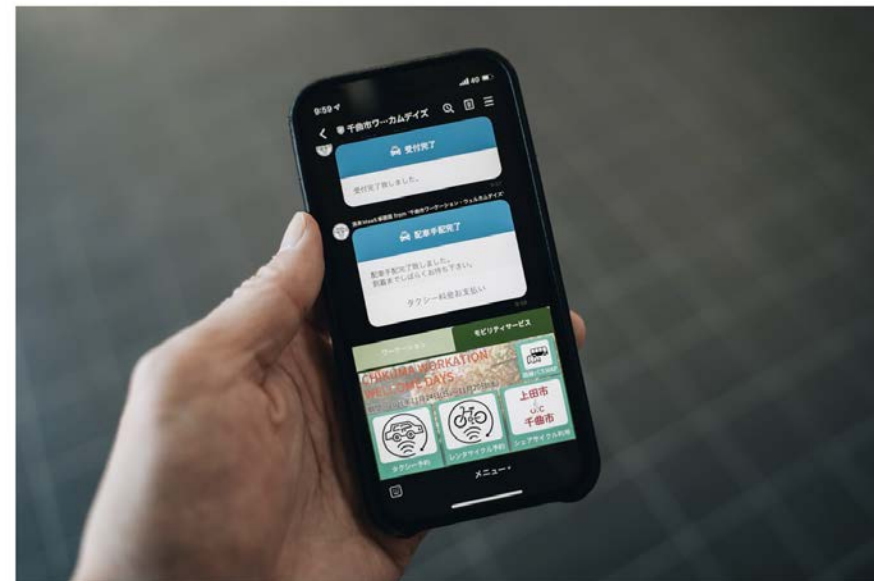
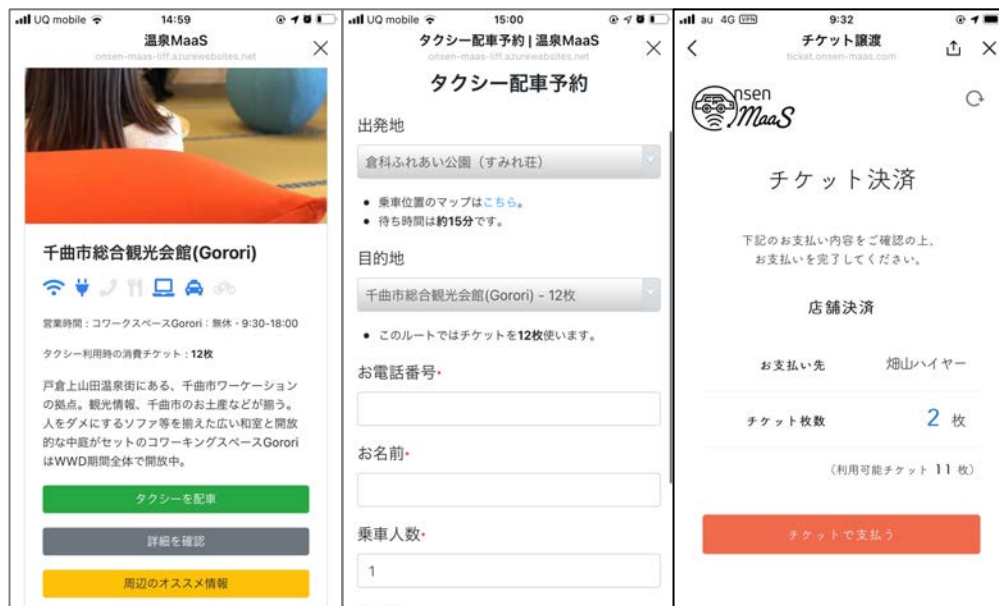
- ワーケーション主催者・参加者、協力してくれている方々が、
「交通手段」、「公共交通」について意識してくれるようになったこと
- ワーケーション以外のイベントにおいて、参加者に来てもらう交通手段について、
また公共交通（鉄道とバス）の乗り継ぎについて、
以前よりもより検討してもらえるようになったこと
- ✓ あんずまつり（2024年3月23日～4月7日開催）に合わせた
「シャトルバス」の運行では、屋代駅における、
しなの鉄道との乗り継ぎがしっかり検討されている
 - ✓ しなの鉄道・信州千曲観光局による「湯けむりNEOネオン号」の
定期運行（2024年4月から毎週土曜日軽井沢→戸倉間で運行）では、
 - ✓ 戸倉駅でバスとの乗り継ぎ連携が図られている

実施までの苦労、やりがいは何？

「できるところからはじめてみる」とはいえ、田村さんの関係者間との調整は、
大変手間と時間がかかったのではないかと思います。

ワーケーションという限られた中で、利用する側も提供する側も一緒に
進められたことで、良い悪い使いやすい使いづらいなどフィードバックを
すぐに得られ、またいろいろ実験的なことを試すにもちょうど良い規模感で、
それが継続のやる気にも繋がっていたと思います。

温泉MaaSをきっかけに、ワーケーション以外のイベントでも、
自家用車以外の交通手段が検討され、公共交通との連携が企画され、
実施されていくことが何よりも嬉しいですし、すこしずつ地域の方々
意識されていくことで、地域の持続可能な公共交通につながっていくと思っており、
その一端に関われたことは光栄に思っています。



LINEアプリでタクシー配車をしたところ



千曲市ワーケーション体験会 第4回 - 温泉MaaSアイデアソン



レボ系プロジェクト 《2》



レボ系プロジェクト《3》

よろづや 再生プロジェクト

和かふえよろづや2階のリニューアル新たな交流拠点が誕生。
和かふえよろづやの女将 北村 たづるさんと、東京を拠点に
100年近くの歴史を持つ株式会社鳶高橋代表 高橋 慎治さん、
それぞれの視点から紹介します。

千曲市屋代駅前通りの商店街にある「つながり」をテーマにした和かふえよろづや。
日替わりシェフによるランチに加え、ハンドメイド作家さんたちによる
アクセサリやインテリア、農産物や食品を販売する「よろづや箱市」、
「楽市楽座」と名付けた広域イベントや教室を開催するなど、
和かふえよろづやは地域コミュニティのハブになっています。

ワーケーションを機に千曲市に訪れた株式会社鳶高橋の代表高橋さんは、
北村さんの地域に対する想いや、人と人をつなぐ活動に深く共感し、
現在は和かふえよろづやのブランディング支援もおこなっています。
高橋さん「よろづやさんでは、地域の産物や体を想うおいしい食事を囲みながら語り合う
解放された和やかな時間が流れています。そんな環境だからこそ、
自然とやってみたいことが溢れ出ていきます。そこから意気投合した仲間
プロジェクト化する過程過程を楽しみながら今回協力をさせていただきました。」

今回2階の改装にあたり、会議ができる空間、体を癒す施術ができる施設、
和室やキッチンと食堂といった多岐にわたる交流が生まれる施設が誕生しました。



地域コミュニティのハブに、
和かふえよろづやがなることを
目指して活動しています。



建築・設計・不動産領域の
ノウハウを活かして、
地域コミュニティの輪を広げる！



プロジェクト発足のキッカケは？



1888年の屋代駅開業と同時期に建てられた「よろづや旅館」が駅前道路拡張工事により「よろづやホテル」と形を変え、2000年ごろまで営業をしていました。以降、空き店舗となった「よろづやホテル」を屋代駅前の交流有拠点となるよう千曲市中心市街地活性化事業の一環で、市役所や商工会議所のサポートにより「和かふえよろづや」として2017年にオープンしました。よろづやは、いわゆる普通のカフェと違って日替わりシェフによる日替わりランチの提供、お客様主催の持ち込みイベント、スペースの貸出しなど「ヒトとヒト、ヒトとコトのつながり」の場になっています。

つながりを大事にしてきた和かふえよろづやは、カフェがオープンから5年経過したら2階を改装し、より多くの方のニーズに合う場の提供を考えていましたが、どうブランディングしていくかが難しく手をつけられずにいました。そこでワークショップに参加された皆さんに思いをお話したところ、株式会社葦高橋代表 高橋さんに理解していただき協力していただけることになり、つながる場のプロジェクトが生まれました。

どんなチームメンバーが参加しましたか？

▼ 関わった人・プロジェクト

Tobitaka Design Office ブランディングデザイン・ 建築設計	和かふえ よろづや 企画、運営	楽市楽座で つながり プロデュース
地域の業者 設計・工事	千曲市役所 アドバイザー	お客様 片づけ隊

実際の成果やインパクトは？

元宿泊施設ならではの間取りと少し懐かしい風合いのする空間をお客様にお貸しすることで、わくわくするコトが生み出されています。

お稽古事、地域の会議、料理教室、着物リメイクの会や着付け教室、新しいプロジェクトの打ち合わせなど使い方は無限大です。

ワークショップで出会う人は自分のスキルや考えが少しでも誰かのためになったり、良い社会に結びつくことであれば、惜しみなく情熱を注ぐかたが多くいらっしゃいます。

地位や立場の枠を越え、出会った瞬間から人を受け入れ、認め、考えたり動いてくださる人たちに出会える場所です。

偶発的な出会いから生まれるおもしろい化学反応をライブで味わえる、まちづくりの未来と希望がここにあると信じています。

私自身もそのエッセンスと今まで培ってきた経験やご縁をもとに、これから多くの皆さんとお会いして進化していけたら最幸です。

実施までの苦労、やりがいは何？

元々はホテルとして運営をしていた場所ですが、20年以上利用をしていなかったため、床が見えないほどの荷物で溢れていました。この荷物の片づけは一苦労。イベントとして地域の皆さんにも協力をいただいて運びだしを行いました。

1階カフェの改装時に関わってくださった地元の業者さんとプロジェクトを機に新たにお手伝いくださった大工さんと共にプロジェクトがスタート。株式会社葦高橋さんが指揮をとり、私どもの描く将来像をうまくコーディネートして下さり、ホテルだった間取りと風合いを生かしながら、今後使われる用途を想定し、みなさんに使いやすい空間に変えてくださいました。

このように、和かふえよろづと工事に関わるみなさんがつながり、形にしていく過程は、まさによろづやの目指す“つながり”によって作り上げた世界でした。



プロジェクト発足のキッカケは？

2020年11月に実施された

「千曲市ワーケーション・ウェルカムデイズ」に参加したことをきっかけに
和かふえよろづやさんに出会いました。

ワーケーション企画側として「カーボンニュートラルを学べる工作」を実施し、
子どもから大人まで体験を通じて環境課題を考えるきっかけとなるコンテンツを
提供しました。その後、ワーケーションイベントを通じて訪れた
和かふえよろづや幸おかみ北村たづるさんの想いや人をつなぐ活動に共感し、
ブランディング支援担当としてよろづやのイベント企画・運営に携わってきました。
和かふえよろづや主催の出張楽市楽座の納涼祭において櫓（やぐら）建築、
企画実行支援をおこなうなど、地域イベントにも携わる過程で、
和かふえよろづやの2階スペースをリニューアルし交流拠点をつくるという
工事プロジェクトが誕生しました。

どんなチームメンバーが参加しましたか？

▼ 関わった人・プロジェクト

私が携わっているプロジェクトの共通点は、
個人として同じ想いをもった仲間たちと課題感を共有して、
楽しみながら内外が喜んでもらえるような事業実践をしていることです。

和かふえよろづやさんと協働で東御市海野宿の魅力を伝える町歩きイベントや、
よろづやさんの常連さんやコミュニティを軸にみんなが楽しみながら参加できる
「楽市楽座」では納涼祭を開催し、櫓（やぐら）の建築で協力するなど一緒にコトを
起こしてきました。新たなつながりやコトが生まれる拠点としてよろづやさんは
ハブになると考えています。より多くのつながりを生む拠点をつくっていくために、
今回は観光局の皆さんにも協力いただき地域の交流拠点のプロジェクトがスタートしました。

実際の成果やインパクトは？

長野県元気づくりを財源に7年前にカフェをオープンした
和かふえよろづやの2Fを再生するためのプロジェクトとして、
人々が交流できる空間をデザインに盛り込んだ空間が完成しました。

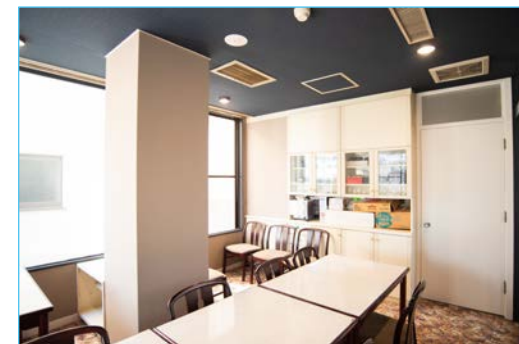
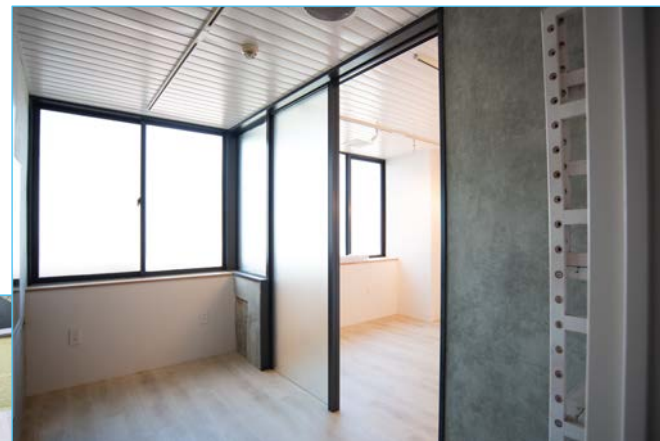
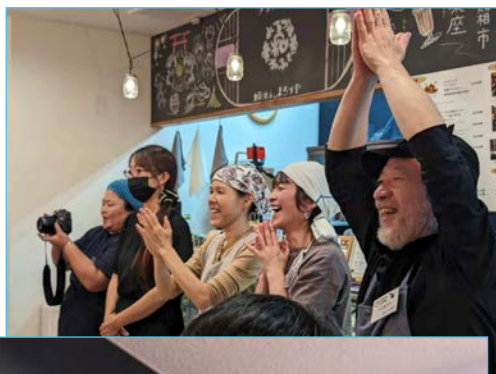
withコロナに備えて作ったキッチンは今食の研究を市民団体、
有志のみなさんが活用しています。今後、アクティブノータンキーズ（後述）の
メンバーである千曲市役所産業振興課の藤森さんと連携をして
コミュニティスペースを建設予定です。

私にとってワーケーションは働き方そのものです。
志を同じくした仲間と共に実施したプロジェクトから得た知見はモデルケースとして
全国に広げられると思っています。予想できない交流の循環が徐々にひろがって、
その広がりから、ヒト起点に新しいプロジェクトがどんどん生まれていく。
地域づくりを考えると、交流や助け合い、一人ひとりが持つエネルギーこそ
まちづくりに直結するのではないのでしょうか。

実施までの苦労、やりがいは何？

よろづやでの話し合いはいつも和やかで、
日常会話から熱量がある本音や想いが飛び出す不思議な時間が流れています。
そんな本音から生まれる、地域の交流拠点をつくりたいという思いには
私も奮い立つものがありました。各々事業や日々のタスクがある中で集まり
プロジェクトを進めるのはスケジュール管理や調整が必要でしたが、
同じ目的に向かって意見を出し合うプロセスには大きなやりがいを感じました。





レボ系プロジェクト 《3》



レボ系プロジェクト《4》

トレインワーケーションプロジェクト

トレインワーケーションは2021年2月に初めて開催し、
現在まで計8回開催しています。

千曲市ワーケーションの特徴である遊休資源を活用するというコンセプトのもと、
平日運行しないしなの鉄道の観光列車ろくもんを活用し、
列車を移動するコワーキングスペースとして贅沢に使用するこの企画は、
千曲市ワーケーションの名物となっています。

この企画をきっかけに千曲市ワーケーションと鉄道会社との接点ができ、
デジタルフリーパスや市町との広域連携など活動が広がっています。

私はトレインワーケーションを始めた頃、信州千曲観光局に在籍しており
電車を借りる側として企画に参加していましたが、ご縁ありしなの鉄道に出向し、
鉄道側としてトレインワーケーションに関わりました。

企画側と鉄道会社両方の視点で経験したトレインワーケーションについて
お話します。



千曲市役所から観光局、
しなの鉄道を経て独立。
面白そうなことを実行します！



プロジェクト発足のキッカケは？

2020年11月に開催したワーケーション体験会の翌日、

元々参加者であった清水さん（当時マイクロソフト）が主催者の田村さんに観光列車ろくもんを貸し切ってワーケーションをやりたいという提案からプロジェクトはスタートしました。

観光列車ろくもんは土日祝日を中心に運行しており、平日は運行していません。

また、当時コロナ禍で普通に観光することが憚られる中、観光列車は運行回数自体が少なくなっていました。そこで「ただの観光でなくワーケーションとしてならば平日貸切運行することができるのではないか」という背景もあり、しなの鉄道に打診しました。

清水さんが鉄道にかなり精通しており、企画書には運行ダイヤや停車場所など詳細に記載したこともあり、打ち合わせはスムーズに進み2月の開催に至りました。今の鉄道会社の立場になって振り返ると、企画提案の時点で開催まで3ヶ月を切っており、運行計画に他社区間が含まれていること、冬季期間であることなど弊害も多い中、よくぞ開催にこぎつけてくれたのと、当時のしなの鉄道職員には感謝しかありません。

どんなチームメンバーが参加しましたか？

▼ コアチーム

田村	清水	坂下	山崎
企画運営／自治体調整	企画	広報PR	関係機関調整

▼ 協力してくれている方々

信州千曲観光局	しなの鉄道	沿線自治体	ワーケーション参加者 (地元の方々も含め)
旅行商品販売	運行	現地での企画	アイデア出し 利用・フィードバック

実際の成果やインパクトは？

現在まで8回開催

日本初開催となった観光列車貸切ワーケーションで、県内全テレビ局にて報道。

メディア掲載多数

今までトレインワーケーションで協力した自治体／地域（千曲市、上田市、東御市、小諸市、佐久市、御代田町、軽井沢町、飯綱町、信濃町、糸魚川市、長野市（戸隠））

しなの鉄道、えちごトキメキ鉄道協力のもと、観光列車を乗り継いだ

信越トレインワーケーション開催（上田－糸魚川）

観光列車ろくもんでなく、通常運行に使用されるSR1車両での

トレインワーケーション実施

トレインワーケーションがきっかけとなった事例

・昭和の寅や ・デジタルフリーパス

実施までの苦労、やりがいは何？

今まで8回開催してきたトレインワーケーションは千曲市ワーケーションを千曲市だけにとどめず、他自治体と広域連携するきっかけになってきました。市内にとどまらないことで企画も広がりを見せています。ただ、豪華な列車の中でワークできるといったこと以外の価値を広く知ってもらうことは難しく、集客には毎回苦労しています。電車を貸し切るのでそれなりの費用がかかるため、集客は毎回の課題です。また、電車の貸切はかなり早くから運行ダイヤを確定させる必要があるため、企画とダイヤのミスマッチも課題です。

電車を移動手段としてでなく目的としている本企画では、サプライズの誕生日ケーキや、車内アナウンス、景色のいい区間での減速走行など臨機応変なアドリブで鉄道会社のサービス精神を垣間見ることができました。今後のトレインワーケーションでは車内でのワークや、停車先での企画のみならず、何度も乗車したくなるような魅力ある企画を鉄道会社と協力してできればと思います。



レボ系プロジェクト《4》



レボ系プロジェクト《5》

記憶に残る「食」 ケータリングサービス

小林 賢一/白石 芽依

(有)フレスコ・カンパニー

フレスコラボのケータリングサービスは
地域の食材を生かしながら目の前で調理し、
ライブ感を持ちながら生産者の方々の思いを食べて頂くお客様に伝える事を大切に
し、

お客様に伝えていく、そんな事が実現出来るサービスです。

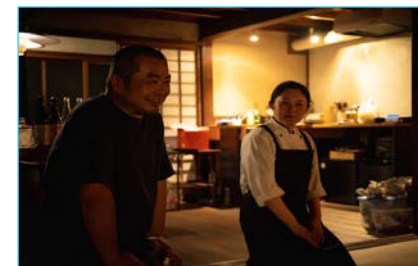
このサービスが出来たのも千曲市ワーケーションで頂いた
夏休みの親子自由研究ワーケーションでの依頼からでした。

キャンプ場でのケータリングサービス、親子で参加されている方達のニーズ、
記憶に残る食事、地域の紹介を「食」で、と提供する立場で
どの様に何をするのかを考え、多くの方々の協力を得て成功したと今では思います。

そこから自分達に出来る事と、出来そうな事と、やったことのない事を
「食」を通じて関わって頂いた全ての方に喜んで頂けるように、
自分達に出来ることを常にアップデートしながら「食」と向き合っています。
気が付けば「食」のレボ系サービスになっています！



私たちのケータリングは、
生産者の方々の思いを食べて頂く、
お客様に伝えていくサービスです。



自分たちにできることを、
常にアップデートしていく場所が、
千曲市ワーケーションです。



プロジェクト発足のキッカケは？

千曲市ワーケーションでの初めての提供はお弁当でした。

「しかも届けた先は凍つく寒さのお寺の境内！なんだかよく分からないけど、寒い事をやってるな！なんだか面白い事になりそうだな！」が初めての印象。

前日に「参加者の方々の懇親会があるから是非きたほうが良い」と

会場のなからや主人鍛冶さんに誘われ恐る恐る伺いました。

正直料理人としても一会社員としてもきっと接点を持つことのなかったであろう方々との出会いから「食」に携わるという意味が大きく変わりました。

「食」で出来る事を喜びだけでなく学びや記憶、そして人と人とを繋げる術にする方法、必要な知識と技術等を重ねるごとに頂くテーマ、コンテンツによって増えてきました。

今は独立した事業としてより多くの方のニーズに応えるべく

広くケータリングサービスを提供しています。

どんなチームメンバーが参加しましたか？

▼ コアチーム（メニュー考案 提供）

小林

料理人

白石

栄養管理士

▼ 協力してくれている方々

永瀬

コーポレート

田村

ふろしきや

山崎

フリーランス

坂下

KOUYO

横江

日本電算

濱野

Vitalize

鍛冶

なからや

清水

昭和の寅や

実際の成果やインパクトは？

千曲市ワーケーションで提供させて頂いた方の中からも個別の依頼を頂けるまでになり、より広域での活動を行っています。

●信州千曲観光局様：建設コンサルタント研修 腸活ジビエگانケータリング

●うんろぐ様：腸活ジビエگان弁当 腸活グリーンスムージー

●VMwear様：八千穂高原オフミーティング ケータリング

●日本電算様：佐久穂ワーケーション ●嫉捨ゲストハウスなからや様：ケータリング

●昭和の寅や様：ケータリング ●観光列車ろくもん様：列車内でのお料理提供

●の音wine 様 ケータリング ●Vitalize様 出張料理（チョウザメ）

●skyer 様（鳥取）ケータリング など、

多岐にわたって異なるシュチュエーションでの提供をご依頼受けています！

その他にもお弁当提供、メニュー考案など数えきれない程の事業展開が生まれました。

実施までの苦労、やりがいは何？

今までに経験のないテーマを多くいただく中で、料理での表現方法を考える上では苦労もありました。

その時間が楽しくもあり、今に繋がっています。

料理を提供して食べていただいた方が喜んでくれる、笑顔になる、伝えたいテーマや想いが届けられた時に大きなやりがいを感じます。多種多様な業種や出身の方が食事を囲むことで、繋がっていく瞬間に立ち会える事は今でもわくわくします。

生産者さんの想いを伝える、食材や料理を介して地域の魅力を伝える、人と人が繋がるきっかけや空間を料理と共に提供する事が出来るようにこれからも挑戦し続けたいです。



レボ系プロジェクト 《5》



レボ系プロジェクト《6》

アクティブ・ノーテンキーズ

千曲市にサテライトオフィスという切り口で

「新しい産業をもたらしたい」と考え、

2022年11月に参加者として体験したワーケーション。

そこで出会った人たちが真面目にクリエイティブに遊んで働く姿勢に刺激を受け、

自分でも何か始めたくなったことが

この「アクティブ・ノーテンキーズ」の活動につながっています。

千曲市にこどもも大人も楽しめ、地域の魅力を最大限活かしたイベントを行う集団。

SUP・テントサウナ・ピザ焼き体験・親子でミニ四駆作成&コース体験・

三輪車レース・モルック大会などさまざまな体験を提供します。

地域に愛着を持ってもらい地域を好きになってもらうためのきっかけを作ります！

なにより本人たちが一番楽しんでいるのが特徴（笑）！！

【コンセプト】

雨にも負けず（NO天気）

テンキーでは測れない（NO 10（テン）キー）

みんなの脳天の鍵（キー）を開けます🔑



千曲市役所
藤森 雅史

自分がいちばん
楽しみながら、
地域の魅力を発掘！

ワーケーションでの刺激が、
「アクティブ・ノーテンキーズ」
の活動のキッカケになりました。





プロジェクト発足のキッカケは？

最初のキッカケは、商店街のイベントで、
SUP事業者の萬年さんと出会ったことです。

「SUPとサウナを融合させたイベントをしたい」と声をかけられ、
そこで、サウナで町おこしを考えている薪ストーブメーカーの
モキ製作所 勝亦さんをご紹介しました。

すると話がどんどん進み、
千曲川のそばにSUPとサウナを融合させたイベントを実施。
鳶高橋の代表 高橋さんもDJとして加わり、そこからプロジェクトメンバーも増え、
市内各地を活用したイベントを行うチーム体制が整っていきました。

どんなチームメンバーが参加しましたか？

▼ コアチーム

藤 森

千曲市役所

場所の確保、
庁内の連携・企画担当。
千曲市を盛り上げたい。

萬 年

SUP事業者

ペットの葬儀・
家系図作成など
いろいろな事業を展開

勝 又

モキ製作所

ミスターサウナ。
琵琶湖や東京ビックサイトで
サウナイベント主催。

田 中

ながのキャンパル代表

キャンプ用品店経営。
さまざまな道具を駆使した
新体験を提供。

高 橋

鳶高橋 代表

フェスにも呼ばれるDJ。
ワークショップを通して
千曲市で事業展開。

実際の成果やインパクトは？

R58.26

萬葉橋下の千曲川の河川敷にてSUP・サウナ・ピザ焼き体験イベント実施。
市内、市外、県外を含む約40人参加。

R5.10/9

千曲市大池キャンプ場にてミニ四駆作成・キャンドル作成・ピザ焼き体験・
モルック体験イベント実施。市内を中心に約50名参加。

R6.2.3

森將軍塚古墳のふもとにてテントヨガ・ミニ四駆・餅つきイベント実施。
市内を中心に約80人参加。

【千曲市へのインパクト】

出店者として各イベントへのオファーが増える。主催者からは「広く会場を使ってくれ
広範囲に賑わいをもたらしてもらえる」と市内の一部では話題！？の団体になる。

実施までの苦労、やりがいは何？

【苦労】

天気との闘いが大変！！

ノーテンキーズのイベントは外でやるものがほとんどなので雨が降ると何もできません。
2024年は一年で2回ほど大雨が降りました。
それでもイベントの中止が0なのがNO天気の由縁でもあります。

【やりがいと想い】

とにかく参加者によろこんでもらえることが一番のやりがいです。
ミニ四駆を通じて「人見知りの子供がよく人と話している」
「他の学校の子とも交流ができていい」といった意見を聞くとやってよかったと感じます。
親子で体験することで千曲市に愛着がもてる機会を多く提供したいと思っています。
アイデアあふれるポジティブなメンバーと一緒に千曲市を盛り上げていきます！！



レボ系プロジェクト 《6》



レボ系プロジェクト《7》

昭和の寅やプロジェクト

昭和の寅や 女将 清水 則子さんと、そのプロジェクト発足のキッカケになった山本 正典さん、それぞれの視点で紹介。

当時、長野県篠ノ井在住、バツイチ、息子ふたりとともに、老人介護のパートをしながら生活していた清水則子さんは「ゲストハウスをやってみたい!」という夢がありました。子どもの頃から好きだった映画「男はつらいよ」の世界を、ご近所さんや旅人が集まって家族のように暮らす「昭和のあたたかい場所」をつくりたい、という夢でした。

清水さんが千曲市ワーケーションに参加し、その話をいろんな参加者にしていたところ「みんなでその昭和のあたたかい世界をつくってみよう」と賛同者が集まりはじめます。

地元の千曲市からは、同じゲストハウスを経営している鍛冶さんを中心に、地方の事業推進を支援している方、不動産事業に詳しい方、市役所の職員など。また、県外からはワーケーションに参加していたIT系の事業立ち上げのプロ、広報PRのプロやクリエイター、建築や内装の職人などが「寅やプロジェクト」と名称を付けて、それぞれの強みを活かせるパートを担当しました。

事業イメージを固める、計画を立てる、物件を探す、

資金を調達する、補助金を申請する、クラウドファンディングに参加する、

リフォームに向けて内装工事を進める…。

清水則子さんの魅力に惹かれた県内外の多くの人たちがプロジェクトに参加し、協力することで、ついに2022年4月おせかいハウス「昭和の寅や」がオープン。

その後も多くの人々の協力を得ながら現在もゲストハウス&シェアハウスを運営しています。



映画「男はつらいよ」の世界、旅人や地元の人が家族のように暮らすゲストハウスがオープン!



地域の活性化に、広告制作で培った企画力を活かしたいという想いを、ワーケーションを通じて実現。





ゲストハウスをやりたいと思ったキッカケ

友人に「ぜひ会ってほしい人がいる」と言われて紹介されたのが、
姨捨でゲストハウス「なからや」を経営していた鍛冶さんでした。
実際に会って話をしてみると「人が集まる場所をつくってみたい」から
「ゲストハウスをやりたい」という風に夢が具体的になりました。

そして、まだ物件すら決まっていなくても
【こんなゲストハウスをやる！】ということを出していきこうという
鍛冶さんのアドバイスのもと、会う人会う人に「寅や」への想いを
語っていました。それがこうやってプロジェクトになる前のお話です。

チームメンバーについて

地元の千曲市からは、
姨捨ゲストハウス「なからや」店主の鍛冶さんの声かけのもと、
地方の事業推進を支援している方、不動産に詳しい方、
市役所の職員さんが力を貸してくれました。
また、話を聞きつけた私の友人で、不動産事業に詳しい方もいました。
一方で「そんなに上手くいかないから諦めなさい」と
心配して声をかけてくれる方もたくさんいて、
本当に感謝をしています。

実際の成果やインパクト

プロジェクト立ち上げ当初、すぐに地方銀行に足を運び、
まずはお金を借りて資金を工面しようとしたところ、担当者に
「あなたの何を信用すればいいのですか？お金はお貸しできません」と
キッパリと断られました。そんな状況から、たった1年後、2022年4月に
実際にゲストハウスが完成するなんて思ってもいませんでした。

現在ではシェアハウスが4室中3室に住人がいて、
ゲストハウスの稼働率は50%。まだ改善点はありますが、
こうやって完成できたことが大きな大きな成果だと思います。

実施までの苦労について

ワーケーションを通じて知り合った、とはいっても、
長くても1年程度のお付き合いで、そんなに深い仲ではありません。
力を貸していただけるのはとてもありがたいのですが、
自分自身では予想できない想像以上のスピードで
モノゴトが進行していくのが不安になったこともありますし、
初めての多額の借金、補助金の対応、はじめてのことに日々追われ、
あれこれ考える余裕がなかったのが逆に良かったのかもしれません。

プロジェクト発足のキッカケ

2021年5月、千曲市ワーケーションに2回目に参加したときのこと、
 姨捨ゲストハウス「なからや」で懇親会がありました。
 その時たまたま隣にいたのが清水則子さんです。
 「寛や」というゲストハウスの話を聞き、当時コロナ禍で
 「自身の会社が社会に役立つためには何をすべきか」を悩んでいたこともあって、
 何か役に立てるならと「事業計画書っぽいものを作りますよ」と
 軽い気持ちで引き受けてしまったのが、清水さんとの初対面であり、
 プロジェクト発足の最初のキッカケです。

チームメンバーについて

自分はワーケーションに参加したのは、千曲市で体験会を開催し始めてから
 2年目の時期だったために、どちらかというすでにワーケーション参加者の中に
 力のある方がいたので、プロジェクトではその方の力をお借りしました。
 IT系の事業立ち上げのプロ、広報PRのプロやクリエイター、
 建築や内装の職人など多くの方が参加し、弱いところは誰か得意な方がカバー、
 強いところはみんなでストロングポイントにする、誰かが依頼しないでも率先して
 誰かがやってくれる、日常の業務ではなかなか感じられないチームワークが
 「あうん」の呼吸でできていました。その感覚はちょっと初めてでした。

実際の成果やインパクト

僕自身、このプロジェクト立ち上げ前に
 「お金ありきのビジネスとしてはお手伝いしない」と決めていました。
 故に会社での業務のような企画料やクリエイティブ料は一切発生していません。
 また、私が見る限り、プロジェクト参加の多くの方が自分と同じ思いを持ち、
 ギブアンドテイクではなく、テイクのみを無償で手伝ってくれました。
 「夢や希望や信頼を大切に人が集まれば、お金がなくてもこんな凄い
 パワーになる」ということを発見できたのが私の大きな収穫になっています。

実施までの苦労ややりがいについて

プロジェクト発足から完成までの約1ヶ月。
 日常的に東京での業務に追われるため、僕は月に1度くらいしか千曲市に
 足を運んでいないのですが、やはり僕の目には見えない（把握できない）
 出来事も多々あり、思い通りに進まないことに苛立ったりもしました。
 住んでいないから分かることもあれど、住んでいないから分からないことも
 本当に多く、オンラインだけでは伝わらないこともあるため、
 東京にしながら地域のお手伝いをする難しさを痛感しました。
 いろんな意味で初めて感じることもばかりでとても勉強になりました。



清水則子さん、初めてのワーケーションに参加。



山本正典さん、事業計画・企画書をプレゼン。



清水さん、ワーケーション参加者と猛勉強。



あのね..
私ね 何年も何年も
空を見るたびに
寅さん思っていました



チカラを合わせてリフォームして完成。